

平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A32	取組 名称	伊根浦舟屋群の保全・継承のあり方についての検討 -生活文化的・民俗学的視点からの調査を通して-
研究代表者： 生命環境科学研究科 教授・三橋俊雄			
研究担当者： 京都府立大学（三橋俊雄） 外部分担者・協力者（伊根町教育委員会・森田連三氏、伊根浦舟屋群等保存会・倉野剛氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 伊根町、伊根町教育委員会、伊根浦舟屋群等保存会			
【研究活動の要約】			
<p>本町は、伊根浦地区が平成17年に重要伝統的建造物群保存地区として選定され、町並みを構成している建築物や環境も含めた景観的な保存活動はなされてきた。しかし、そうした物的環境以外の舟屋における生活や生業の実態をみると、従来の舟屋を中心としたライフスタイルはほとんど見られなくなり、手こぎ船による刺し網漁などの伝統的漁法を実践している漁民も、漁船の大型化や漁民の高齢化により姿を消しつつあるのが実情である。</p> <p>本計画では、消えつつある伊根・舟屋における生活実態を民俗学的道具学的視点から、生活文化調査を実施し、「ほんものの伊根舟屋文化保存観光（Tourism and Authenticity）」を推進していきたいと考え、以下の項目について実施した。</p>			
【研究活動の成果】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 伊根浦舟屋群における伝統的生活文化・生活技術に関する聞き取り調査により、舟屋を通して行われてきた手こぎ船による刺し網漁、延縄漁などの、漁の準備から漁具の手入れまでの技術や道具類、生業暦等の様態が明らかになった。 2) 伊根舟屋における漁師・民宿を両立させて地域活性化を図っている実践者への聞き取り調査から、伊根舟屋地区の活性化には、建築・環境整備だけではなく、漁を生業とする「<u>漁師</u>」の数を増やす<u>観光</u>のあり方が問われていることが明らかになった。 3) 環境共生教育演習Ⅰ「わーわーさん（藁の魔除け）づくり体験」実施（平成26年9月）により、伊根町に伝わる精神文化、精神的空間（結界概念）の存在と「ワーワーさん」の製作方法について明らかにし、また、将来の伊根の活性化に関する学生の考えを聴取した。 4) 環境共生教育演習Ⅱ「伊根・新井崎の舟屋調査」実施（平成27年2月）により、新井崎の舟屋の歴史やその特性について明らかにした。 5) 以上の調査より、伊根町に存在する伊根浦及び新井崎の舟屋の多様な形態・生業のあり方を発見し、伊根における舟屋文化の豊かさを確認した。また、伊根浦に関しては漁に関わる生活文化調査の必要性を、新井崎に関しては舟屋建築の調査・保存の必要性と、急斜面に沿って建てられた住居空間の生活特性、棚田と漁によって成立する生活文化調査の必要性が明らかになった。 			
【研究成果の還元】			
26年度に伊根町・新井崎の舟屋と暮らし調査を実施し、その成果をもとに調査アンケートを作成、平成27年2月18-20日に、学部生・院生を含め48名の参加による本学教養教育・環境共生教育演習Ⅱを実施した。この調査資料を精査し、伊根町並びに新井区住民に還元する予定である。			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科、三橋研究室 教授 三橋俊雄 Tel: 075-703-5435 E-mail: tmitsu@kpu.ac.jp			

参考 (イメージ図、活動写真等)



わーわーさんづくり体験



ワーワーさん製作指導・大江勇治郎氏(90歳)



伊根・新井崎の舟屋群、10棟あまりの集合舟屋、木造船も格納されている



新井崎の港で舟屋の観察・スケッチ



新井崎の舟屋スケッチ